

国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ09-11-1/5)

目 的

日本の紙文化財を所蔵する海外の美術館・博物館に専門の保存修復家が所属していることは稀であり、海外の保存担当者からの保存修復についての問い合わせは多い。日本美術品の保存・修復・活用を行うには、材料や技法などの基礎的な理解と取扱い、修復の実技研修が必要であるが、海外でそのような機会を得ることは困難である。また近年では、日本美術品に限らず、和紙を使った修復技術が海外の文化財修復に応用されるようになってきた。そこで本研修では、紙文化財に関する保存修復の講義および演習を通して、参加者に紙文化財に関わる基礎知識を伝えるための研修を行う。

概 要

研修日程：2011（平成23）年8月29日～9月16日

研修場所：九州国立博物館、その他

研修対象：紙文化財の保存と修復を担当する学芸員、修復技術者、科学者および保存担当者

研修参加者（10名）：

ABDOLLAHI Parisa（テヘランアザッド大学・イラン）

BOUDALIS Georgios（ビザンチン文化博物館・ギリシャ）

CRESPO Luis（スペイン国立図書館・スペイン）

GINDROZ Florane（ジュネーブ図書館・スイス）

KEMPAIAH PUTTASWAMY Madhu Rani（インド芸術文化遺産ナショナルトラスト・インド）

ODOR CHAVEZ Alejandra（メキシコ国立公文書館・メキシコ）

SNITKUTE Daiva（ミカロユス コンスタンティナス チュルリオーニス国立美術館・リトアニア）

STIGLITZ Marinita（オックスフォード大学ボドリアン図書館・イギリス）

WITKOWSKA Monika（パリ第一大学・フランス）

MAHEUX Anne Frances（カナダ国立図書館公文書館・カナダ）

研修内容

<講義、その他>

8月29日：オリエンテーション、自己紹介。8月30日：「装幀概念」岡泰央。「日本絵画修復に用いられる接着剤について」早川典子。8月31日：「紙の基礎」加藤雅人。9月2日：自己紹介。9月13日：「古文書の紙について」藤田励夫。9月15日：ディスカッション。

<実 習>

8月30日～9月2日、9月12日～15日：卷子修復（虫損直し～卷子装の仕立て）。和綴じ冊子作製。屏風、掛軸の取扱。

<スタディーツアー>

9月6日～9日：名古屋市（徳川美術館。紙の温度。）、岐阜県美濃市（長谷川和紙工房見学。美濃和紙の里会館、観覧および和紙の手漉き。美濃史料館観覧。美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区見学）、京都市（修復材料・道具店。岡墨光堂（修復工房）見学）。

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、楠京子、山田祐子、川端冴子（以上、文化遺産国際協力センター）、山口加奈子（保存修復科学センター）、安孫子卓史、深井啓、谷村彩、的場麻美（以上、研究支援推進部）